

AJWCEF

NEWSLETTER 2015 年 11 月 Vol. 12

AJWCEF 会員及びご支援を頂いております皆様へ

皆様には平素より AJWCEF の活動にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

2009年度より開始いたしましたオーストラリア野生動物保護トレーニングコース、オーストラリア海洋生物保護トレーニングコースを修了されました方が2015年度には200名を越えました。この間には様々な出来事があり、コースの内容を変更せざるを得ない事態になった事もあります。例えば、当初はコース中に野生のコアラのトラッキング実習を実施しておりました。これらの野生コアラは事故や病気でコアラ病院に入院した経験があり、退院時に追跡調査のための小型電波発信機を装着され、自然に戻されました。そのコアラたちを我々がトレーニングコース中にトラッキング実習に活用させていただきました。2009年の時点で調査対象となる電波発信機装着コアラの数は全部で7頭でしたが、事故や病気のため徐々に数が減り、3年後の2012年には最後のコアラが事故で死亡いたしました。それによりこの実習は終了せざるを得なくなりました。この減少傾向はAJWCEFが対象としていた電波発信機装着コアラ達だけに見られることではありません。その証拠に、コアラの個体数の減少により、ニューサウスウェールズ州、クィーンズランド州、オーストラリア首都特別地域では、最近コアラが絶滅危急種に指定されました。トレーニングコースに参加されました皆様は、この失われゆくコアラ達の現実を目の当たりにし、環境の保護と、人と自然の共存の大切さを再認識されたものと信じております。

AJWCEF は環境の保護活動支援だけでなく、社会の皆様にも今の自然環境の実情を広く知っていただくための教育活動にも力を入れております。皆様におかれましては今後も AJWCEF の活動にご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

オーストラリア日本野生動物保護教育財団

理事長 水野 哲男



2015 年 8 月 トレーニングコース（初級） レポート

（写真：2015 年 8 月 野生動物保護トレーニングコース（初級）より）



日本獣医生命科学大学 獣医学科 2年 上玉利成美



私は小さい頃から野生動物が好きで、野生動物の保護に関わる獣医になることに興味を持っていました。この野生動物保護トレーニングコースの存在を知り、今しかできない経験ができると考えて参加しました。

具体的に 15 日間の実習では、2 グループに分かれてゴールドコーストにあるデイビッド・フレ野生動物公園と、ブリスベンにあるモギル・コアラ病院とで 1 週間ずつの実習を行いました。グループのメンバーは北海道や東京などの別々の大学から集まっていた初対面でしたが、皆私と同じような思いで参加していたので、すぐに打ち解けて仲良くなりました。実習中の食事は基本的に自炊なので、その日の実習後に皆で食材を買いに行き一緒にご飯を作ったり、次の日に持っていくお弁当

のメニューを出し合ったりしました。実習後は疲れていたはずなのに、皆と一緒に生活していると不思議と疲れを感じませんでした。ブリスベンにあるモギル・コアラ病院の実習では、コアラが入院する部屋の掃除をしてユーカリの葉を入れ替えたり、1 頭 1 頭に合わせて薬を与えたり、先生の行う治療に立ち会って、治療方法を学んだりしました。大学でもまだ習っていないことを学んだり、立ち会ったことのない手術を自分の目で見たりしたことはとても印象に残りました。ゴールドコーストにあるデイビッド・フレ野生動物公園では、毎日違う動物の世話をしました。カンガルーやコアラだけでなく、ディンゴやカモノハシ、ビルビーなど他では決して触れることのできない動物たちに直接触れて、公園内で働くレンジャーの方達に直接質問したりできたことは貴重な経験でした。

実習中には他に、寄付金で成り立っているカランビン野生動物病院や、クイーンズランド大学などを訪れ、日本とは違う環境や考え方を知り、日本にいた時とは違う見方で周りを見ることができるようになった気がします。また、休日に友達とバスやトラムに乗って出かけたり、英語を話したりと、何より現地での生活を楽しむことが出来ました。2 週間本当にありがとうございました。



帯広畜産大学共同獣医学科 山田 晴日

私の将来の夢は、獣医師として野生動物に関わることです。今回このトレーニングに参加したのも、自分の夢をより具体化するためでした。実際にオーストラリアに行って、野生動物保護の現場を見て経験して学んだこの二週間は、今の私そして未来の私にも大きく影響を与えるものになったと思います。

オーストラリアは野生動物との共存を考えて、様々な取組を行っていました。コアラ病院や野生動物専門の動物病院、野生動物公園、野生動物のリサーチセンターなどで野生動物を守りながら、日々野生動物とどのように人間が関わっていくべきか検討を続けていました。そのような場所で実際にコアラをはじめとする野生動物に触れ、世話をし、解剖をすることができたのは、本当に貴重な経験です。日本では見ることのできない絶滅危惧種の世話をしたり、有袋類や単孔類の生態のレクチャーを受けたり、行動観察で動物の生態や状態を目から学び取ったりと、日本ではまず経験することができないことばかりでした。そして日本では、まだまだ野生動物の分野に携わることは難しいけれど、オーストラリアではたくさんの獣医師やボランティアの方々が野生動物保護に携わり、治療や環境保全、社会教育に取り組んでいたことに驚きました。

また、このコースでは素敵な出会いがたくさんありました。オーストラリアの獣医師さん、レンジャーの方、AJWCEF のスタッフの方、そして何をするにも一緒に頑張った同じ参加者の皆さん、すべての方が私にとってかけがえのない存在となりました。

このトレーニングに参加したことで、夢への大きな第一歩が踏み出せたと思います。オーストラリアの方々が全力で野生動物保護に取り組んでいたように、私も立派な獣医になれるように全力を尽くそうと思います。将来、獣医師として戻ってきます！

治療を受けて森に帰るコアラ

REIKO

今回のトレーニングについて、まず一言で表現すると、楽しくて有意義だった一です。

年配者が1人だけ若者に交って迷惑をかけるのではないか、みんなに引かれてしまうのではないか、という懸念を持ちつつ参加したのですが、そのような懸念はすぐ払拭されました。予想どおり、他の参加者は全員若い方でしたが、皆しっかりした目的を持ち、前向きで明るく優しい方ばかり。そして何より動物好き。すぐに溶け込みました。（と私は思っているのですが、、、）だから若者とのハウスシェアは、貴重な体験であり、楽しかったです。



定年退職後、野生動物保護に関わる活動をしたいと思っていたところ、インターネットでトレーニングのことを知り、ボランティア募集の記事にもひかれて参加を決めました。

観光では行けない、オーストラリア固有動物の保護施設やコアラ病院を訪ね、動物舎の清掃、動物たちへの給餌や投薬など楽しい経験ができました。これがまさに私が新しくしたかった活動なのです。また動物の行動観察を通じて、対象動物にさらに関心を持つようになったのも収穫です。

一方深刻な問題にも気付かされました。コアラ病院では、毎日のように交通事故にあったり、犬に咬まれたコアラが運ばれて来ました。その30%が病院に着いた時点で亡くなっており、40%が手遅れで助からないという現実。日本よりも野生動物保護についての理解が多いと思われるオーストラリアでも、厳しい状況に置かれている野生動物。この現実をより多くの人に知ってほしいと思いました。ただ、トレーニング中入院していたコアラの内数頭が、私たちの帰国後野生に帰ったことを聞き、救われました。彼らが野生生活を謳歌することを祈ります。

今回のトレーニングに参加して、シニアにはシニアなりの活動の仕方があると、自信を持ちました。今年始めた日本の野生動物保護活動を、おばさんパワーで頑張ります。同時に若者を応援し、また海外のボランティアとも交流できたらと思います。

学生 Y.T



今回、AJWCEFさんの2015年度夏季オーストラリア野生動物保護トレーニングコース(初期)に参加させていただきました。

当初は互いに初対面の方々ばかりでどうなるだろうと心配ではありましたが、実習や自炊、洗濯など複数人と共同生活をしていくうちに自然と仲良くなることができました。参加している方々も学生から社会人まで幅のある方々が多いため、幅広い交友関係を築くことができることも素敵でした。また、AJWCEFの職員の皆様がとても丁寧で優しい対応をしてくださったことがとても安心できました。実習先の病院や野生動物公園の職員の皆様も、私たちのたどたどしい英語にも丁寧に、また根気強く対応してくださるので実際の英語の勉強にもなりました。

オーストラリアでの実習は日本では体験できないものばかりでとても貴重な体験となりました。特にオーストラリア特有の動物種や絶滅の危機に瀕している動物種と身近に触れ合うことができたことが何より楽しく、また専門知識や技量を学ぶことができたことが自分にとってこれからの糧となったと心から感じています。

日本とオーストラリアとの野生動物に対する認識や制度の違いを身をもって感じることもできたことも大変貴重だと感じました。日本にいれば他国の制度やその国の人々の意識を知ることは難しいですが、実際にその仕事についている方々、ボランティアとして参加している方々との交流はとても刺激になり、これからの環境保全、野生動物保護について改めて深く考える機会をもらったと思っています。

今回のスタディーツアーで得た知識や経験を決して無駄にするようなことはせず、深く考え、勉強しながら努力、精進していきたいです。トレーニングコースに参加させていただくことができ、心から楽しく、本当に良かったと思っています。また機会があれば次回は上級のトレーニングコースに参加できればと考えています。

AJWCEF 職員の皆様、大変お世話になりました。皆様の今後のご活躍を心から願っています。

イプスウィッチ コアラ保護協会 IPSWICH KOALA PROTECTION SOCIETY

「私たちはすべての者にとって最良の結果が達成されるように開発業者にも働きかけています。」

By Helen Darbellay

皆さんもコリンウッド公園周辺で土地開拓が起きている事にお気づきかも知れません。これはウッドリンク・ヴィレッジ・エステートの第一弾です。

(訳注：イプスウィッチコアラ保護協会会長の) ルースと私は、開発がどのように進められるべきか、またどのようにすれば野生動物にとって最良の結果を達成し得るのかについて開発業者とイプスウィッチ市議会と議論を重ねてきました。全ての野生動物にとって一番良いのは、言うまでもなく、彼らの生息地が手付かずの状態で維持されることでしょう。しかし残念ながら、それは不可能だったり、非現実的だったりします。私たちが森林保護に執着すれば、人々は私たちに「極端な環境運動家」というレッテルを貼るでしょう。そうすると何も達成することが出来なくなってしまうのです。何年も前にこの地域の開発許可が出てしまっているのです。

開発で伐採される木の埋め合わせに別の地域に木が植えられます。それは遠い未来には役立つかもしれませんが。しかし、それは何年も先で、いま生息地を失おうとしている野生動物たちには何の役にも立たないのです。



多くの野生動物が複数の巣穴を必要としています。しかし巣穴となる空洞の形成に 100 年またはそれ以上かかると言われています。

開発業者への働きかけによって、Goodna Creek (河川) 沿いの既存の生息地の維持と強化、また (断片化した) 生息地を繋ぐ回廊を拡大する計画を作る事が出来ました。彼らは雑草を根絶し、地域の重要な植物相のエリアや個々の樹木を紹介する看板を設置し教育に役立つ散歩道を作ります。

伝統的な所有者 (訳注：先住民) にも、ブッシュタッカー (訳注：オーストラリア原産の植物を使った先住民の伝統的な食べ物) を教えたり、ブッシュタッカーに使われる植物のエリア作りに関わってくれることを私たちは期待しています。

また、地域の学校の子供たちが植林し、自分の名前をつけて自分の木として所有する計画もあります。

生息地を繋ぐ回廊が拡大・向上されることによって、野生動物たちは河川に沿って分散できるようになります。そしてコアラが今も生息している二つに分断された生息地を繋ぐことが出来るでしょう。この回廊は他の野生動物たちにもより大きく、より安全な移動を可能にします。

これはただ作られ、そして放置されたりはしません。再び雑草が蔓延ったり、ゴミだらけになったり、破壊者たちの遊び場になることはありません。定期的に監視し、問題を報告するための関係者による小さな委員会が作られます。イプスウィッチコアラ保護協会のメンバーがこの委員会の一員として参加します。イプスウィッチ市、地域の学校、そして伝統的な所有者たちからも代表者がこの委員会に参加する事になります。



イプスウィッチコアラ保護協会によって救助、リハビリのされている様々な野生動物たち

A J W C E F では今後も献身的で愛情に溢れた野生動物ケアラーたちの活動の支援を続けていきます！
野生動物保護トレーニングコース (初級) ではイプスウィッチコアラ保護協会の野生動物ケアラーを訪問しています。

活動報告

2015 年 5 月から 2015 年 10 月まで



インターネット中継教育

1. オーストラリア ブリスベン市、レッドランド市、イプスウィッチ市、ゴールドコースト市などにある野生動物及び環境保護施設やクリーブランド地区高校、プレンベイル小学校と、岐阜県可児市にある可児工業高校、春里小学校、南帷子小学校を中継で結び、オーストラリアの自然、生活、環境保護活動などを英語で紹介する中継教育活動を実施。

野生動物保護トレーニングコース

1. 2015 年 8 月下旬 トレーニングコース（初級）

スタディツアー

1. 2015 年 9 月 日本獣医生命科学大学

海洋ドキュメンタリー（デービッド ハナン作品）上映会とトークショー

1. 2015 年 5 月 横浜フロンティア高校、日本獣医生命科学大学、明海大学、オーストラリア大使館

事業

1. ユーカリ植林事業
(モギルコアラ病院、プレンベイル小学校、ケンモア・サウス小学校、AJWCEF での共同事業継続中)
2. オーストラリア日本研究交流事業
(クイーンズランド大学、日本獣医生命科学大学、モギルコアラ病院、デービッドフレイ野生動物公園等)

寄付

1. モギルコアラ病院：\$ 2,759.67
2. イプスウィッチコアラ保護協会：\$ 509.67
3. クイーンズランド大学：\$ 1500.00



AJWCEF スタッフ紹介

Sawa



初めまして、**Sawa** と申します。現在獣医学科 6 年次に所属しており、大学卒業後は国家公務員として日本の野生生物保護をメインとした自然環境保全に携わります。
私は 2014 年夏にトレーニングコースに参加しましたが、オーストラリアでは人と野生動物の距離が近く、人々が動物との共生意識を高く持っていると感じました。広い視野を持って人と動物の共生を目指したいと考えるようになり、進路選択の上で大きなきっかけとなりました。
ブログの広報を通して、遠く離れたオーストラリアで人と動物の共生を目指して何が行われているか、何が問題となっているかを伝えていければと思います。そして私達の発信するブログを読んだ皆様が、身の回りの動物に対して何らかの意識を持ってもらえれば幸いです。

Atsushi

こんにちは！この度ブログボランティアとして、オーストラリアの野生動物問題を日本語で配信するお手伝いをさせていただくことになりました。**Atsushi** と申します。大学では獣医学を専攻しており、野生動物分野へのアプローチを模索しております。
2014 年に AJWCEF さんのトレーニングコースに参加させていただき、日本人の野生動物問題に対する意識の低さを痛感しました。この活動を通じて、ひとりでも多くの方が野生動物に目を向けるようになっていただければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します！



—AJWCEF 野生動物ニュースブログ—



AJWCEF ボランティアスタッフによる野生動物や環境に関するオーストラリアの政府発表や新聞記事の内容を日本語で紹介するブログ。
随時更新中です！是非ご覧になってくださいね！



<http://ajwcef.blog115.fc2.com/>



イベント情報



海洋生物保護トレーニングコース（初級）

2016年2月27日（土）～3月6日（日）9日間

野生動物保護トレーニングコース（上級）

2016年3月5日（土）～3月13日（日）9日間

野生動物保護トレーニングコース（初級）

2016年3月13日（日）～3月27日（日）15日間

募集期間 2015年10月15日～11月30日

応募状況により二次募集を行なう場合があります。

※詳細は AJWCEF ホームページにてご確認ください。



会員（個人・法人）募集 及び 支援寄附のお願い

皆さまのご支援が小さな命を助けます

詳細は、AJWCEFのサイトwww.ajwcef.org『入会・寄付』のページにお進みください。

ニューズレター発行元

オーストラリア野生動物保護教育財団本部事務局

発行責任者 水野哲男

編集担当 平野聡美

ホームページwww.ajwcef.org

住所 PO Box 1362 KENMORE,
QUEENSLAND, 4069, AUSTRALIA

電話 +61 7 3374-3909

FAX +61 7 3374-3531